

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472400346		
法人名	日本理化工業株式会社		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム はつらつ		
所在地	三重県津市芸濃町椋本5481-2		
自己評価作成日	平成26年1月8日	評価結果市町提出日	平成26年3月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2472400346-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigvoNoCd=2472400346-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 1 月 27 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

\* 利用者が安心して生活して頂けるように、職員一人ひとりが傾聴・受容・共感の気持ちを常に意識してサービスに努めている。  
 \* 家族が希望されれば主治医・看護師・介護職員と連携を図り看取りまでの支援をしています。  
 \* 炊き立てのご飯・熱々の味噌汁等、作りたての食事、軟らかさ・大きさ等にも配慮し家庭的な雰囲気の中、食事を楽しんで頂けるように努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

決められた時間ではなく、起床・食事時間等は利用者の体調・希望に応じた援助を心掛けており、利用者の意向に寄り添うように日々、対応している。また、利用者が「安心した暮らし」ができるためにどうすればよいのかを職員間で話し合い共有し、利用者との関わる機会を多く持ち日々、介護にあたっている。さらに、看取りについて家族・医師・職員・看護師で話し合い、医師の協力体制のもと家族の意向に添った看取り支援ができるように取り組んでいる。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある「安心した暮らし」を提供するに当たり、各担当が意見を出し、職員同士で話し合いをして実践に努めている。	理念の中の「安心した暮らし」に重点を置き実践している。職員に「何が安心なのか」についてアンケートを実施し、職員間で共有し介護にあたっている。関わる機会を持ち、会話する事を大事にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し、地域の草刈り等で交流を深めている。傾聴ボランティアの方々とも馴染みになってきています。	自治会に加入し、地区の草刈りに職員が参加している。地域の方が傾聴ボランティアをされており、又、手品等をするサークルも事業所を訪れている。近所の方から土筆等の差し入れがあったり地域との交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年、包括支援センターさんより、認知症の勉強会に参加依頼がありました。実現されませんでした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で、実際の夜間の避難訓練に協力しますと意見を頂き、実行出来ました。今後の課題が見つかり、年に1度は協力をお願いしたいと思います。	会議は隔月で、家族・自治会・民生委員・市・包括が参加して行われている。防災について検討し、家族や自治会の協力で夜間の訓練を実施し、課題を会議で検討する等、有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議では出席可能な曜日を伺い、必ず参加して頂いています。会議内では、はつらつの実情や取り組みについて話し合っています。	運営推進会議の依頼文書は必ず持参し、担当者とお話をする機会を持っている。更新の手続きやオムツの申請等で担当課に出向くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	具体例を出し、毎年勉強会を行い、職員は理解していますが、玄関は死角になっている為、施錠している状況です。	入居者の状況により、玄関は施錠をしているが職員は拘束にあたることを理解している。年に1度は言葉や身体拘束禁止の対象となる具体的な11の行為が拘束になることを話し合っており、常に拘束について話し合い拘束しないように心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束同様に具体例にて勉強会を行い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在1名の方が利用されています。制度について学ぶ機会を予定していましたが実現出来ませんでしたので、実現出来るようになっていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明は、入居時に行い、理解・納得を得て契約を結んでいる。金銭的な事で解約せざるを得ない時には十分な支援を行っている。改定時は文書で依頼し、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してあるご意見箱は今だに、利用されていません。面会時に、ご意見・ご要望をお聞きして、反映させられるように努めている。	面会時やケアプラン説明時等に家族の意見を把握するように努めているが、殆ど意見はない状況である。2ヶ月に一度、グループホームたよりを家族に郵送しているが、家族からの反応はみられない。	請求書を郵送する時に利用者の状況を知らせること等により、家族が要望を表出できるような取組を期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に一度、本社との面談を含め、月に一度の職員会議・スタッフ会議なので、意見を聞く機会を設け、反映させている。	本社との面談に管理者も参加し、職員の意見を把握するように努めている。スタッフ会議・職員会議で話し合い職員の意見を反映している。職員からの要望で今年度は有休の取得に応じたボーナスへの反映を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り、希望に沿った勤務体制をとっている。向上心・やりがいを持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は全員で行っているが、施設外研修は連絡が遅い場合もあり、参加出来ない時もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは電話連絡などで、情報交換を行っているが相互訪問は実現できていない状況です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は不安・混乱に陥るのは当然の事なので不安を取り除くよう、密に対応していき、本人に寄り添い、安心して頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に家族の思いを十分傾聴し、サービス開始後に活かしている。また、家族との連携を図り、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	信仰している方があり、安否確認を兼ねて、自宅訪問されていた信者の方には、入居後も来所して頂き、本人の安心に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事が上手く出来なくなってきたが、職員と共に行う事で、良い人間関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や次回面会予定日をカレンダーに家族さんの字で記入して頂き、または外出の回数を増やして頂くなどで家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	傾聴ボランティアの方に馴染みの人がみえ毎月お互いに楽しみにしてみえます。また、利用者と利用者の家族が友達の方も有り、面会時には共に過ごせるよう支援をしている。	宗教関係の方が来所することがあるが快く受け入れており、又、馴染みの美容院に家族が対応できない時には送迎をしている。傾聴ボランティアの方が利用者との関係である。重度化に伴い家族の協力が少なくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性利用者と女性利用者の相性などを考慮してテーブル席を決めたり、難聴の方には職員が会話の橋渡しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でも、必要に応じて相談・支援が出来る関係性を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望を会話の中からくみ取り、把握する事に努めている。また、その内容を職員が共有し、日々のケアに活かしている。	日頃から関わりを多く持ち会話を通して思い等を察するように心掛けている。訴えない利用者には寄り添い、タッチングをすること等で表情から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の聞き取りの中で得た情報を職員間で共有し、ケアに努めている。信仰している方が有り、在宅時には何度も訪問し、安否確認をされていた。信者の方が週に1度は来所され、心安らかに過ごされている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務前には必ず申し送りノート・業務日誌ケース記録に目を通したうえで業務に就いている。関わりを多く持ち、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三か月に一度、各担当者が現状を把握し、また今後の課題を記入し、それを元にケア会議を行い、担当医や家族の意見も参考にして介護計画を立てている。	3ヶ月毎にモニタリングと見直しを実施しており、担当者が事前に意見を出し、会議で検討している。医師から書面で、家族は面会時や電話で意見をもらい計画に反映している。サービス内容を別表にし、介護支援がし易いように工夫している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートを活用し、職員間で情報を共有している。また、朝礼を利用して個別に注意すべき事を話し合い、介護計画にも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	静養室を設け、夜間の見守りの必要な方に利用してもらっている。訪問マッサージの利用も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	昭和の唄の慰問を毎月受けたり、傾聴ボランティアの方達とお茶会で楽しいひと時を過ごしてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の意向により駒田医院に移行しており、2週間に1度往診を受けている。緊急時にも対応出来る体制である。	入居時に説明を行い、かかりつけ医を家族が決められている。従来のかかりつけ医の受診は家族が対応しているが受診時の情報提供は行っている。協力医とは24時間協力体制ができている。他科の受診は事業所が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは出勤時・夜間であっても密に連携を図り、適切な指示を受け、受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には管理者・看護師・主任が面会に伺い、状態を把握している。早期退院に向け、家族・病院関係者・施設側と同席話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化についての説明と同意書を得ている。終末期についても、医師・家族・管理者・看護師と話し合いを重ね、職員の指導も行っている。	入居時に延命の有無や終末の場等を確認票で家族の意向を把握しており、急変時や終末期に再度、看取りについて説明し家族の意向に添うように対応している。今年度は1名の看取りを行っており、職員の研修を行ったり、外部の吸痰研修を受ける等、看取りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に対応出来るような訓練を行っている。年に1度は消防署に依頼し、講習を受け、実践力を身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の協力を得て、実際に夜間の避難訓練を行った。全員出勤時には、何から行うか、何が大切かなど復習を重ねている。	夜勤体での訓練を5月に実施し、避難誘導の時間・階段・暗さ等の多くの課題があり検討している。以後、職員を変え夜間想定で訓練を実施し、職員自身が考え対応できるように取り組んでいる。また、緊急連絡時の一斉メールの対応も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しつつ、誇りを損ねないような言葉かけをしているが、本人の希望にて「ちゃん」と呼んでいる方もある。	人生の先輩として尊敬し、言葉使いに配慮して接しており、名前の呼び方は利用者・家族の了解を得て行っている。また、トイレの声掛けや部屋の出入りにも十分注意を払い対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化に伴い、希望の表出が困難になってきている。本人に選択できるように声かけし自己決定出来るよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事の時間など、本人の希望に添って支援している。居室で休みたい方には希望を聞き休養してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	時間帯や季節に合った服装で居られるよう支援している。訪問理美容の支援もし、男性の利用者にはひげそりの声かけや、そり残しの介助をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日には本人の好きな物を提供したり、外食・お弁当・お寿司などで変化をつけている。ホールとキッチンが近いので、臭い等で食事が「楽しみ・・・」と言われる方も多い。	食材・メニューは業者に依頼しているが、調理は事業所で行っている。メニュー以外に材料があると惣菜を追加している。食器拭きや盛り付け等を利用者がしており、職員と共に和気藹藹と食事をしている。嗜好は誕生会の食事に反映したり、年に3回程度、外食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	男性利用者には多めの盛り付けなど配慮している。Dr指示にて栄養補助飲料などで対応している方もある。水分についても、個々に支援し、1日に必要水分量は確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力であっても、介助を要する方には職員が援助したり、個々の状態にそった支援をしている。訪問歯科も利用する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ対応者であってもしリハビリパンツを使用し職員2人で、トイレ介助を行っている方もある。尿意の無い方は排泄チェック表を利用して、職員が連携し援助している。	排泄チェック表を利用し、利用者に応じた声掛けを行っている。利用者が重度化しているが、昼間はトイレでの排泄を原則としている。オムツの方はいないが、自立している方も少ない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜・水分等にも配慮し、運動なども行っているが、Drの指示により下剤・坐薬を使用する方もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午後からの隔日入浴としている。基本前回、入浴していない方からとしているが、希望があれば対応している。	隔日か週4日の入浴日であり、週平均2~3回入浴をしている。利用者に応じた温度・入浴時間・回数で柔軟に対応し、入浴を楽しんでいる。拒否する方には声掛けの内容を変えて入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の明るさ、温度など希望にそった支援している。個々の状態に応じて昼間も休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療記録があり、個々の記録に目をとおす事が出来る。薬が変更になったり、新しく処方された場合は、申し送りノートにより周知している。服薬後も注意して観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のコーヒーを楽しみにしている方があり、その人が希望した場合、近くに居る方も全員がコーヒータイムを楽しんでもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩はしているが、外出については家族の協力で月に一度、実現出来る方もある。重度化に伴い家族の協力もだんだん減ってきている。	天気の良い日には駐車場に出たり、周囲を散歩している。また、季節の花見(桜、紅葉等)に出かけているが、利用者の重度化に伴い、遠方に出かけることは減少しており、家族の支援で外出するケースも少なくなっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	安心のため、事務所預かりとしている。家族の希望でも有り、買い物は代行している。職員と共に買い物に行ける方は減ってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話依頼が有れば行すが、頻回な希望の時は内容により、家族の事も考慮し、控える事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールで1日過ごす方もあり、室温・明るさ・テレビの音量・掃除機の音などに配慮して居心地の良い空間を提供している。トイレも1日に2回清掃し、清潔を保っている。季節の花を飾っていても花びらを摘み取ったり、花瓶から抜き取ったりする方もある。	居間は窓から温かい日光が差し込み明るく、利用者の居場所となるようにソファが配置されている。また、食卓や居間に季節の生花や鉢植えが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所を確保し、テーブル席・テレビ前のソファ・廊下の長椅子等、思い思いの場所にて過ごす事が出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの机や椅子を持参し、居心地良く過ごしてもらっている。ご夫婦で入居されている方もあり、居室にて2人で過ごせるテーブルセットを購入してもらった。	容量の大きいクローゼットが備え付けられており、各居室が整理整頓されている。使い慣れた椅子やテーブル等が置かれ、又、家族の写真が飾られており利用者に応じた生活空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居当初はトイレの場所が分かるように支援している。居室には、大きめの名札を貼り、自ら居室に戻れるように支援している。		